

学んで話し合って行動しよう

第49回民放労連全国女性のつどい

「第49回民放労連全国女性のつどい」が5月26日(土)・27日(日)に北海道・札幌で開催され、全国から民放各局で働く一七名が集まりました。

今年のテーマは「Girls Be Ambitious 飛べばいいしょ!北海道」。つどいのはじめに山根あゆみ実行委員長が挨拶し、「北海道は女性協がないため、北海道地連の男性メンバーも含め一〇人で準備をしてきた。大変だったが意見交換や話し合いができて、いい仲間に出会

えた。そして一切妥協せず
に企画・交渉してきて叶った分科会も絶対に乗しんで
もらえる内容になった。北海道に来てよかったと思っ
てもらえたら嬉しい」と述べ
ました。続いて民放労連
本部の赤塚オホロ委員長
が、東日本大震災に関して、
がれきの処理も進んでいない、
原発の再稼働もなし崩
しのに進みつつあるなど問
題点を挙げ、このようなこ
とをうまく報道できない状
況を、メディアにいるもの
としては心して考えるべ
き、などと指摘。そして女

性協議会の岸田花子書記長
は、「放送界からこれだけの
人数が集まるのはすごい
こと。ここで学んだり話し
合ったりして、ロールモデ
ルを見つけて行動に移して
ほしい。他の人のことが自
分のヒントになることもあ
る。個人が抱えた問題をみ
んなで一つひとつ解決して
いこう。ここで聞いたこと
を自分の単組の要求に加え
ていくなど、今回のつどい
を意義深いものにした」と
と挨拶しました。その後、
放送スタッフユニオンの飛
田泰寿さんが今年3月末で

事業譲渡された、衛星チャ
ンネル問題について報告し
ました。「社員二十八人中自
分以外の二七人は早期退職
を受け入れた。地裁前での
ヒラ配りや提訴の準備など

一人で闘ってなんとか和解
に持ち込めたのだが、それ
も労働組合の支えのおか
げ」また、「地域限定社員、
新人事制度などを入れよう
とする場合、女性社員に対



全国各地から集まった女性たち!

する不利益変更
となる可能性が
あるため、注意
が必要だ」と最
近の事例にもふ
れました。

このあと、記
念講演、五つの
分科会、全体会
・交流会、二日
目のバスツアー
など、参加者は
有意義な時間を
過ごしました
(詳細は別頁)。

第49回 民放労連全国女性のつどいin札幌

Girls Be Ambitious

翔べばいいっしょ! 札幌

「第四九回全国女性のつどいin札幌」で行われた記念講演、幅広い内容で行われた分科会の様子を紹介しします。

食 ▲ムダなく美味しい カンタン☆お料理レシピ



南極料理人の西村淳さん

極寒の南極、ドーム基地で二度の越冬を経験した西村淳さん。越冬隊員達の旺盛な胃袋を支え続けた南極料理人の技とは…?

冒頭から出てきたのはお料理のレシピにあらず。南極の美しいオーロラ、のんびり日向ぼっこするアサラシ、飛び出すペンギンなど、西村さん節節裂のハチャメチャなスライドショーがスタート！ 歓声と大笑いが溢れた。西村さんは「料理のことは忘れてしまおう。今日は、それを忘れて、ただただ楽しむ。突然、一分でできちゃう特製クッキーが登場。これが、ムツダ」が登場。これが

美容 & 健康

タヒチアンダンスでアツアツ

タヒチに二〇年間暮らし、KAZUE先生が、札幌で開設したダンススタジオが今、話題になっています。ハワイのフラダンスのルーツとも言われるタヒチアンダンスは、かなりのスピード感とキレのある振り付け

で、骨盤を回しながら中腰で踊るのでとてもハードです。参加者一六名が色とりどりのパレオを腰に着け、国

花であるティアレの香りオイルを手首に塗ると、そこはもう南国タヒチ。華やかな空気に女性たちから「ステキー」と歓声が上がりました。KAZUE先生の愛あふれる「もともと腰を落とすように腕を上げて！」のゲキが飛び、あちこちから悲鳴が…。でもおかないなくスバルダンスは続きです。先生が一番強くおっしゃったのが「笑顔で！」。つらい体勢でも笑いながら一時間半を過ごすうちに一体感が生まれ、一曲の踊りを完了させ、フィニッシュポーズを決めた瞬間、大きな拍手が沸き起こりました。全

国から集った女性陣の笑顔に周りの大人に伝えた結

き」と総括しました。続いて福島放送の高野可南子さんが、原発事故から一年三ヶ月経った地元の空気を報告。「避難指示地域となつた人・ならなかった人」「補償金をもらえない人」「海軍部・内陸部」など市民の気持ちは一つになり得ず、どの立場で二ニュースを出すかが悩ましいと語りました。また、

同日、津波から逃げながらもカメラで周囲を記録し続けた武田弘克記者（東北放送）のレポートを上映。記者・報道機関のなすべきこととして、「救助より取材ではなく、二つを同時にすることも可能」「震災時は、報道機関であると同時に防災無線の役割も果たすべ

い」と語りました。また、同日に行うことも可能「震災時は、報道機関であると同時に防災無線の役割も果たすべ

震災報道

東日本大震災から1年

さて、この講演を作るのに数多くの実行委員が関わりました。全体構成、VTR構成、編集、選曲、当日会場設営、荷物運搬、機材設定、進行など。非常にうまく「分業」がなされ、各々が楽しく準備ができたと思います。結果、とても楽しいものができあがったと自負しています。

後日、山田いずみさんが自身のブログに今回の講演のことを書いて下さいました。「すっごく楽しい時間になりました。貴重な経験をありがとうございました。準備してきた我々、参加者のみなさん、そして山田さんにとっても実りあるものになったのではないかと思います。

当日、津波から逃げながらもカメラで周囲を記録し続けた武田弘克記者（東北放送）のレポートを上映。記者・報道機関のなすべきこととして、「救助より取材ではなく、二つを同時にすることも可能」「震災時は、報道機関であると同時に防災無線の役割も果たすべ

はるばる遠い北国・北海道へお越しいただいたこと、改めて感謝申し上げます。お仕事が忙しい中、そして一部地域では運動会などが重なり参加が難しい状況の中、一七名のみならず、ご参加いただいたことを大変嬉しく思っています。

北国は女性協がありません。なので、今大会は男性を含む「北海道地連」として準備を進めてきました。「広大な北海道を満喫し、日々の疲れをとってほしい！」「私たちが実

たこと等々、「想定外」の一言で片づけられない現実には、一つずつ対処できていられはるばる遠い北国・北海道へお越しいただいたこと、改めて感謝申し上げます。お仕事が忙しい中、そして一部地域では運動会などが重なり参加が難しい状況の中、一七名のみならず、ご参加いただいたことを大変嬉しく思っています。

記念講演

美翔女たちのチャレンジ

元女子スキージャンプ選手 山田いずみさん

今回の記念講演のゲストは元女子ジャンプ日本代表選手・山田いずみさん。女子スキージャンプの先駆者であり、女子ジャンプをオリンピック競技に導いたパイオニアです。VTRなどを交えながら、幼少期、世界と戦った時期、引退、そして引退後の活動などを中心にお話しして頂きました。内山アナウンサーとの対談形式にすることで、より楽しく見ていただけたのではないかと思います。「飛ぶことが好きで好きでたまらない」という山田さんの



とても真似できない…ジャンプのポーズ

に伝わってきました。講演終了間際には「ジャンプポーズの実演」も行われました。参加者も席から立ち上がり、山田さんの教えのもと、ジャンプのポーズを真似してみようという、普段の生活では経験できない格好をして頂きました。「こんな低い姿勢になんて飛ぶんだ」という驚きの声も聞かれ、会場に一体感が生まれました。

勢になんて飛ぶんだ」という驚きの声も聞かれ、会場に一体感が生まれました。

勢になんて飛ぶんだ」という驚きの声も聞かれ、会場に一体感が生まれました。

勢になんて飛ぶんだ」という驚きの声も聞かれ、会場に一体感が生まれました。

勢になんて飛ぶんだ」という驚きの声も聞かれ、会場に一体感が生まれました。

勢になんて飛ぶんだ」という驚きの声も聞かれ、会場に一体感が生まれました。

勢になんて飛ぶんだ」という驚きの声も聞かれ、会場に一体感が生まれました。

勢になんて飛ぶんだ」という驚きの声も聞かれ、会場に一体感が生まれました。

災害 ▲天災への備え 減災を手にした人たち



岡田名誉教授は臨場感ある体験談も披露

果、一〇〇人以上の人命を救ったエピソードでは、「知る」ことの重要さに加え、それを「伝える」ことがい

かに大事かという点を強調されました。また、2000年の有珠山噴火の事例では、過去の噴火経験により平時から知識・情報・危機感を持って住民が備えていたため、一人の死者も出さず、住民の被害も最小限にとどまると、臨場感ある体験談をまさに住民・行政と連携していた当事者としての立場で語られました。

「災害被害を減らすには行政・学者・住民としてメディアがそれぞれに連携をしていなければならない」と語る先生の情熱溢れる人なりに触れ、みな満足気でした。

「災害被害を減らすには行政・学者・住民としてメディアがそれぞれに連携をしていなければならない」と語る先生の情熱溢れる人なりに触れ、みな満足気でした。

「災害被害を減らすには行政・学者・住民としてメディアがそれぞれに連携をしていなければならない」と語る先生の情熱溢れる人なりに触れ、みな満足気でした。

女性のつどい実行委員会

参加者のみなさまへ

はるばる遠い北国・北海道へお越しいただいたこと、改めて感謝申し上げます。お仕事が忙しい中、そして一部地域では運動会などが重なり参加が難しい状況の中、一七名のみならず、ご参加いただいたことを大変嬉しく思っています。

はるばる遠い北国・北海道へお越しいただいたこと、改めて感謝申し上げます。お仕事が忙しい中、そして一部地域では運動会などが重なり参加が難しい状況の中、一七名のみならず、ご参加いただいたことを大変嬉しく思っています。

はるばる遠い北国・北海道へお越しいただいたこと、改めて感謝申し上げます。お仕事が忙しい中、そして一部地域では運動会などが重なり参加が難しい状況の中、一七名のみならず、ご参加いただいたことを大変嬉しく思っています。

▲北方領土問題▲

語り継ぐ島の記憶

講師は択捉島の藤取(しべとろ)村出身の三船志代子さん。自ら文章を担当した絵本「ばあちゃん(の)しべとろ」を分科会の参加者一七人を前に読み聞かせる形で、島を追われる小学校三年生までの体験を語りました。同著は2001年度(四島(しま)とわたし)絵本コンクールで最優秀作品に選ばれた作品。冬の寒さが厳しい島の生活で、質素ながらも豊かな自然に恵まれた穏やかな日々。そうした平和が旧ソ連軍の侵攻で突如奪われる絶望。故郷を懐かしむ気持ちと悲しく辛い思いを三船さんの柔らかな語り口と誰にでもわかりやすい挿絵で表現されました。



講師が読み聞かせてくれました

講演後、参加者の一人から「今も島に戻りたい?」との問いに、三船さんは「既にロシアの住民がいる。その人たちの故郷でもある」と答えました。戦後六〇年以上に渡るロシアによる実効支配で、現地に生活の基盤を完全に失う一方、日々進んでいく新たな住民による生活。既に同じ島を故郷とするロシア人をも北方領土問題の被害者と考え

三船さんの優しさに、長きに渡るこの問題の複雑さが一層際立ちました。今一度考えるべきは「誰の島か」ではなく「誰のための島か」なのかもしれません。国同士の問題ではあるかもしれませんが、住民目線の解決を願います。

▶全体会・交流会◀ 北海道郷土料理に大満足



二日目の分科会にバスターを盛り込み、解散場所や時刻が各々違うため、一日目の夜に、全体会を兼ねた交流会を行いました。はじめに、川村庄子女性協議長が「女性の方々と語り、親交を深めてほしい」と挨拶、乾杯の発声とともに「全体会&交流会」がスタートしました。

お料理は、ワガママを言っていると思われつつもシェフと何度も交渉し、「鮭のちゃんちゃん焼き」や「ジンギスカン」などの北海道郷土料理、「じゃがいも三品種の食比べ」など、道産食材を取り入れたメニューを用意していただきました。

そして、北海道産じゃがいも10kgをかけた「テール対抗〇×クイズ」。記念講演・分科会の講師全員が出席されていたこともありました。

〇×クイズで盛りあがる!

また、会場でも流れていたBGMも北海道にちなんだもので、北海道に来たことを五感で感じられる「全体会・交流会」となりました。

最後に、北海道地連委員長の大島康孝さんが、参加者のみなさんへの感謝の気持ちを伝えるとともに、来年の開催地・東北地連へとバトンを渡ししました。

会場は大いに盛り上がり、また、会場でも流れていたBGMも北海道にちなんだもので、北海道に来たことを五感で感じられる「全体会・交流会」となりました。

大倉山見学& ジンギスカンバスツアー

今回のサブタイトル「翔べばいっしょ!」北海道にヒッタリな二日分科会「大倉山バスツアー」。一日目に講演をしていただいた山田いずみさんが同行してくださいました。



大倉山をバックに「ハイポーズ!」

大倉山に到着後まずはずりフトで頂上へ。特別に「関係者以外立ち入り禁止」の扉の奥、選手のスタート位置まで行くことができました。

実際に立つてみると、とにかく高い!怖い!山田さんをはじめとするジャンパーの並外れた勇氣と地道な努力を体で感じる事ができました。

その後は札幌ウィンタースポーツミュージアムへ。ここでは、過去から現在までのオリンピックをはじめとする競技大会の貴重な資料を見学したり、ウィンタースポーツの疑似体験ができました。一番人気は、やはりスキージャンプの体験!山田さんから直接アドバイスももらい、楽しみながらウィンタースポーツの体験をしました。さらに、実際に山田さんが使っていたスキー板・ウェア・靴を

見ながら、スポンサー集めの苦労・けがをしたときどのように立ち直ったかなど聞いて、プロスポーツ選手界の厳しさと、競技を愛している情熱を感じました。ランチは北海道ならではの「生ラムジンギスカン」。

北海道産のペーラムをおいしくいただきました。北海道のスポーツ文化・食文化にふれることができたと同時に、自分の夢に向かって進み続ける山田さんからパワーをもらった一日でした。

八重桜が満開!のサプライズも

八重桜が満開!のサプライズも。北の有機野菜や新鮮な魚介やお肉にこだわり、デトックスやアンチエイジングのサポートメニューとしても非常に人気のある健康&美容ランチです。四〇種類以上のお料理にデザートも一〇種類以上、そして帰りは宿の山田支配人から特製のシェークリームがお土産に渡されました。以上、三つの魅力を持ちあわせた支笏湖ツアーは限られた時間の中ではありましたが、大いに北海道を感じていただきアンケートでも最高の評判。

美容と健康のバスツアー in 支笏湖リゾートスパ水の調。日本最北の不凍湖であり、日本でも二番目に深い支笏湖の素晴らしい景色はなんと六名)が参加しました。このツアーの魅力は大きく三つ。①絶景!支笏湖。札幌からバスで一時間ほどの国立公園の中にある湖です。



八重桜が満開!のサプライズも。北の有機野菜や新鮮な魚介やお肉にこだわり、デトックスやアンチエイジングのサポートメニューとしても非常に人気のある健康&美容ランチです。四〇種類以上のお料理にデザートも一〇種類以上、そして帰りは宿の山田支配人から特製のシェークリームがお土産に渡されました。以上、三つの魅力を持ちあわせた支笏湖ツアーは限られた時間の中ではありましたが、大いに北海道を感じていただきアンケートでも最高の評判。